

インターバンクの声（2017 年 8 月 15 日）

東京市場はお盆休み真っ只中で薄商いになっているが、本邦輸入企業のドル買いに米長期金利が強含んだこともあって、ドル円相場は 109 円台後半まで上昇した。前週末の米消費者物価指数が予想以上に低下し、米 FRB の今年 3 回目の利上げは難しいとの見方がもっぱらだったが、実需のドル買いに加え、先週 110 円台でドルを売った個人投資家による買戻しが入ったこともドル買いを支えたようだ。

その後のロンドン市場でも欧州株の上昇から 109 円 80 銭までドル買いが続いたが、ニューヨークの昼前には米金利の低下もあって 109 円台中盤までドル売り調整が入った。

それでも、前週末の 2 人の地区連銀総裁の発言には反応薄だった市場も、昨日はダドリー・ニューヨーク地区連銀総裁の「FRB が 9 月にバランスシート縮小を開始するとの見方に不合理はなく、経済指標が予想通りであれば年内あと一回の利上げの可能性はある」との発言に再度 109 円 70 銭台に戻した。

安全資産として買われていた円やスイスフランからドルに戻すニーズが残っているかどうかが気になる。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。